対キューバ共和国 事業展開計画

2022年 4月 現在

基本方針 (大目標)	持続可能な開発への支援
---------------	-------------

重点分野 1 (中目標)	農業開発													
開発課題 1 (小目標) 農業開発	【現状と課題】 現在のキューバの食料自給率は、全体で約30%、穀物で50%程度といわれており、農業開発を通じた生産力の向上や生産の多様化は重要課題の一つである。また、就労人口の約21%が第一次産業に従事しているにも関わらず、キューバのGDPに占める農林水産業の割合は約5%であり、生産性の向上による増産等が望まれている。					【開発課題への対応方針】 これまでの我が国の協力により、キューバ国民の主食である米の増産のための優良種子の生産体制を強化してきたことから、次なるステップとして、個別農家への穀物の栽培技術の普及に資する支援を行い、農業生産性を高め食料自給率向上に貢献する。 また、草の根・人間の安全保障無償資金協力等を通じて、食糧増産・流通のための各種支援を行う。								
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考	
					2021 年度 以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度				
	食糧増産 プログラム	キューバの食料自給率向上を目的に、キューバ国民の主食である米やその他の食糧増産を支援し、農業生産効率を高める協力を行う。	基礎穀物のための農業普及システム強化プロジェクト	技プロ	■	-	-	-	-	-	-	7.62	1,2	
			稲種子生産技術向上のための農業機材整備計画	無償	■	-	-	-	-	-	-	12.15	1,2	
食糧増産分野の課題別研修			課題別研修	■	■	-	-	-	-	-		1,2		
食糧増産分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力			草の根無償	■	■	-	-	-	-	-	0.60	1,2		

重点分野2 (中目標)	保健医療												
開発課題2 (小目標) 保健医療	【現状と課題】 キューバでは、平均寿命の延伸により疾病構造が変化し、非感染性疾患に対する保健医療体制の改善・強化が喫緊の課題となっている。そのため、がんの早期発見等のための適切な画像診断能力の強化や、ICTを活用した効果的な医療サービスの提供と効率的な病院運営を目指し、医療現場では画像診断部門を筆頭に近年デジタル化に取り掛かりつつある。しかしながら、長きにわたる米国の経済制裁の影響等による外貨及び物資不足で、医療器材の更新が適切になされておらず、さらには院内の情報通信器材やネットワークのぜい弱性、医療情報の不十分な管理体制などの課題がある。					【開発課題への対応方針】 これまでの協力で、我が国の技術優位性を活かすことができる医療器材等の支援に加え、同器材を活用した非感染性疾患対策に資する支援や同器材等の維持管理能力向上に資する支援を行ってきた。これらの成果さらに発現させるために、病院レベルでの情報通信器材・ネットワークの運用改善、デジタル医療データの管理・活用能力向上を支援し、医療画像システムを含めた病院管理システム全体の統合的な運用の実現に貢献することを目指すとともに、医療サービス全体の質の向上および組織的対応能力の強化を目指す。							
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
	保健医療 プログラム	非感染性疾患に関する保健医療体制強化のための医療機器の整備、医療人材の早期診断技術の向上、および病院レベルのデジタル化支援を行い、医療サービスの向上を目指す。	医療器材保守管理・がん早期診断能力強化プロジェクト	技プロ	■	-	-	-	-	-		1,3	
			主要病院における医療サービス向上のための医療器材整備計画	無償	■	■	-	-	-	-	12.73	1,3	
			画像診断における病院のデジタル化促進プロジェクト	技プロ	-	■	■	■	-	-	2.56	1,3	
			経済社会開発計画	無償	■	-	-	-	-	-	5.00	1,3	令和2年度補正案件
			新型コロナウイルス感染症危機保健医療能力強化計画	無償	■	■	■	-	-	-	3.26	1,3	UNICEF連携無償ラスト/ワンマイル
			保健医療分野の課題別研修	課題別研修	-	■	■	-	-	-	1,3		
保健医療分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力			草の根無償	■	■	-	-	-	-	0.10	1,3		

重点分野3 (中目標)	環境保全												
開発課題3 (小目標) 環境保全	【現状と課題】 島嶼国であるキューバにとっては廃棄物対策と限られた資源の有効利用は大きな課題である。しかしながら廃棄物や廃水等による環境汚染が深刻な環境問題となっており、廃棄物の適切な処理や循環型社会の促進は、同国の持続可能な開発のための重要課題である。また、近年の気候変動の影響は一層深刻になっており、水資源管理などの気候変動対策も喫緊の課題となっている。					【開発課題への対応方針】 これまでの協力の成果をベースとして、リサイクル促進を含む循環型社会の実現に向けた支援や水資源の統合管理能力強化への支援を通じ、都市環境汚染や気候変動対策に貢献する。							
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
	環境保全 環境保全 プログラム	都市を中心とした廃棄物管理やリサイクル促進、また気候変動対策として、水資源管理への支援等を行い、環境問題の改善を目指す。	アルテミサ・マタンサ地域における水資源の統合管理のための能力強化プロジェクト	技プロ	-	-	-	-	-	-	5.48	6, 11,13	
			環境保全分野の課題別研修	課題別研修	-	-	-	-	-	-		3,6,11,12,13,14	
			廃棄物処理分野のJICA海外協力隊	JOCV	-	-	-	-	-	-		3, 11,12, 13	
			自動車整備分野のJICA海外協力隊	JOCV	-	-	-	-	-	-		11,13	
環境保全分野の草の根・人間の安全保障無償資金協力			草の根無償	-	-	-	-	-	-	0.10	11,13		
重点分野4 (中目標)	社会経済基盤の整備												
開発課題4 (小目標) 社会経済基盤の 整備	【現状と課題】 輸入した石油を主要な燃料源とするキューバは、燃料価格の変動の影響を受けやすく、また、質の悪い石油を使うことで大気汚染が進んでいる。こうした状況を受け、エネルギー源の多角化に向けた再生可能エネルギー分野の開発等も喫緊の課題となっている。さらには、老朽化あるいは未整備等多くの課題を抱える運輸交通インフラ改善もキューバ政府にとって重要な開発課題となっており、日本の技術、経験の活用が期待されている。					【開発課題への対応方針】 マスタープランの策定を通じ、開発課題の解決に向けた方策を明らかにするとともに、日本の技術的な優位性を活かした協力を実施する。							
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
	エネルギー プログラム	日本の技術的な優位性を活かしつつ、キューバ政府の推し進めるエネルギー源の多角化及び再生可能エネルギー導入促進等に資する協力を行う。	再生可能エネルギーの開発に向けた電力セクターマスタープラン策定プロジェクト	開発計画	-	-	-	-	-	-	3.09	7,9,11,13	
			青年の島における電力供給改善計画	無償	-	-	-	-	-	-	23.92	7,9,11,13	
			エネルギー分野の課題別研修	課題別研修	-	-	-	-	-	-		7,9,11,13	
	運輸交通 プログラム	日本の技術的な優位性を活かしつつ、運輸交通インフラの整備・維持管理に係る計画の策定支援等に資する協力を行う。	全国運輸マスタープラン策定プロジェクト	開発計画	-	-	-	-	-	-	4.75	9, 11	
経済社会開発計画			無償	-	-	-	-	-	-	10.50	11,13	平成30年度案件	
道路・橋梁維持管理			国別研修	-	-	-	-	-	-		9, 11		
運輸交通分野の課題別研修			課題別研修	-	-	-	-	-	-	-	11,13		

その他													
協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考	
				2021 年度 以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度				
その他 個別案件		投資促進アドバイザー	個別専門家	■	-	-	-	-	-	-		8, 9	
		輸出促進アドバイザー	個別専門家	-	■	■	■	-	-	-		8, 9	
		経済改革に向けた人材育成ニーズに係る情報収集・確認調査	基礎情報調査	■	-	-	-	-	-	-		8, 9	
		社会経済改革に向けた人材育成	国別研修	-	■	■	■	-	-	-		8, 9	
		日本語教育分野のJICA海外協力隊	JOCV	-	■	■	■	-	-	-		4	
		観光分野のJICA海外協力隊	JOCV	-	■	■	■	-	-	-		4, 8, 11, 12	
		教育分野社会福祉の草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償	■	■	-	-	-	-	-	0.15	3,4,11	

凡例 「協準」(＝全ての協カ準備調査)、「詳細設計」(＝詳細設計)、「基礎情報調査」(＝基礎情報収集・確認調査)、「技プロ」(＝技術協カプロジェクト)、「開発計画」(＝開発計画調査型技術協カ)、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」(＝課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(＝JICA海外協力隊)、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」(＝科学技術協カ(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(＝草の根技術協カ)、「〇〇省技協」(＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協カ)、「民間提案型技協」(＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「SDGs調査」(＝途上国の課題解決型ビジネス(SDGsビジネス)調査)、「無償」(＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協カ)、「水産無償」(＝水産無償資金協カ)、「食糧援助」(＝食糧援助)、「一般文化」(＝一般文化無償資金協カ)、「草の根文化」(＝草の根文化無償資金協カ)、「緊急無償」(＝緊急無償資金協カ)、「日本NGO」(＝日本NGO連携無償資金協カ)、「草の根無償」(＝草の根・人間の安全保障無償資金協カ)、「有償」(＝円借款、海外投融資)、「情報収集調査」(＝基礎情報収集・確認調査)、「マルチ」(＝国際機関等を通じた多国籍協カスキーム)、「基礎調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」)、「普及・実証・ビジネス化事業」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」)、「実績」(＝実施期間)、「破線」(＝実施予定期間) ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。

【SDGsゴールの説明】1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」

【SDGsの詳細】https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf